

平成二十六年 入学試験問題

国語

第一回

【注 意】

- ・ 試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・ 問題は一ページから六ページまでです。
- ・ 解答はすべて解答用紙の解答らんに入入してください。
- ・ 解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

① 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

日本語の言語環境の中では、察し合うこと、気を配ることが大変重要視されています。たとえ相手の話の内容がよく理解できなくても、「理解できない」と指摘することは減多にしません。それはたいそう失礼な行為にあたりません。ですから分からないことは分からないままに何となく受け止め、そのまま通り過ぎてゆくのが日本語の対話の特徴であると私は考えています。対話のための技術を国語教育の中で指導されることもないので、これは当然のことかもしれません。

私が以前に英語を教わった外国人は、最初の十分間に必ず短い問答を実施して行きました。彼は大学の教員で、七年間日本で暮らし、その間アルバイトで英語を指導していました。長いこと日本人に英語を指導するうちに、彼は日本人が畳みかけられたときに沈黙すること、問われたことに対して即答できないこと、問われた内容に対して具体的な返答ができないことに気づきました。これでは通じる英語が話せるようにならない、と彼が導入したのが十分程度の短く簡単な問答のトレーニングでした。この問答は本当に簡単な質問ばかりでしたが、その簡単な質問にさえ日本人の参加者は四苦八苦し、即答できずにうろたえるのでした。問答はたいいの場合、次のような調子で展開しました。

先生 昨日は日曜日でしたね。(1) あなたは何をしましたか？

日本人 私は何もませんでした。

先生 あなたは一日じゅうベッドにいたのですか？

日本人 いいえ、私はベッドにはいませんでした。

先生 なるほど。では、あなたは何をしましたか？

日本人 ……。私は…。えっと…。特に何もませんでした。

先生 でも、ベッドにはいなかったのでしょうか？

日本人 はい。でも…。(沈黙)

先生は、質問に対してなかなか答えられずにいると、「早く答えて。そんなに時間をかけたら、外国人はあなたに対する興味を失ってしまい、二度と誰も話しかけなくなる。とにかく、訊かれたことに対して具体的に答えなさい」と、何度も注意を促しました。「早く、早く。とにかく、質問され

30

25

20

15

10

5

たことに簡単でいいから答えを返しなさい」と、彼は四六時中叱咤しました。しかし、これがなかなか日本人にはできないのです。ごく簡単に具体的な質問に対して、難しく抽象的な答えを返そうとして詰まったり、問われた質問の周辺でウロウロして結局質問の内容からずれた返答をしたり、といった調子でした。そのたびに先生は、「私にはよく理解できない。簡単に答えて」と声をかけます。そして先生が急がせば急がすほど、日本人の生徒たちは追いつめられていくのでした。ちなみに、授業への参加者は全員理科系の研究員で、彼らの英語の水準は決して低くありませんでした。彼らは英語の論文を日常的に書いたり読んだりする生活の中に身を置いていたからです。海外の学会などへ出かけてゆく機会もありました。授業を私の自宅で行なっていた関係で、私だけがシユフでした。

先生と参加している日本人の対話を外側から見ているうちに、私は日本人の英語の答え方に共通するものがあることに気づきました。そして、日本人が英語で話す言葉を日本語に置き換えて考えてみて、はっとしました。彼らは、日本語で考え、日本語的な発想で英語を話していたのです。先の例は、問われたことに直接具体的な答えを返しさえすればそれで良かったのです。つまりこんな具合です。

日本人 昨日僕は朝九時に起きました。昨日は疲れていたもので、僕は一日じゅう家にいました。家で僕はテレビでサッカーの試合を見ました。それから、僕は前から読みたかった本を一サツ読みました。

「何をしましたか？」と問われたのですから、具体的に「何をしたか」について答えればそれで十分なのです。(3) 余計なことに気を回さずに、問われたことに直接答えを返せば、追求されることもなかったのです。これが日本人同士だったら、どのような会話になったでしょうか。おそらく次のような展開になったのではないのでしょうか。

日本人A 昨日の日曜日、何かした？

日本人B 別に。特に何もしなかったね。

日本人A そうなんだ。暑かったしね。何もする気になれないよね。

日本人B 本当に暑かったね。このところ本当に夏が暑いよね。やっぱ

60

55

50

45

40

35

(4) 一般的な日本人の言語環境では、自分が立てた質問に対して相手が直接的な答えを返さなければ、質問をした本人は深追いをしません。自分が知りたいと思つて立てた問いに対して、相手が特に返事をしてくれなくても、それはそれとしてあまり気に止めることもなく次の話題に移つてゆく、それがごく自然な日本語の対話ではないでしょうか。けれどもこうした言語習慣が、英語を含む欧米の言語の習得にかなりの障壁になることを認識しておくことは重要です。

外国語、特に欧米の言語を習得するためにはもうひとつ大切な「ヨウソク」があります。それは、対象を分析的に切り取り、自分なりの批判的考察を論理的に展開する技術です。次の引用文は、日本を代表するヴァイオリニストであり、ベルリン交響楽団の第一コンサートマスターである安永徹氏と作曲家の三善晃氏の対談からの抜粋です。この対談で三善晃氏は次のように語っています。

ところが日本人とヨーロッパ人が同じ「エンソウ会」に行つて二人とも感動したとしても、そうはいかない。日本人が「今日はよかったね」と言うと、ヨーロッパ人は「どこが、どのように？」と訊くことになる。そうした場合、日本人は果たして自分がいいと思つた理由を言葉に表現できるか、つまりそういう受け取り方をしているかということになります。それを言語化するのがヨーロッパ人の考え方なんです。言語化できる受け取り方の実体があるわけです。それをつき合わせれば、二人の「よかった」に違いがあつて、「いい」ということが立体的に見えてくる。

(安永徹対談集 『音楽つて何だろう』、八五ページ)

安永徹氏との対談における三善晃氏のこの言葉は、日本人とヨーロッパ人の対象の切り取り方の相違を実に分かりやすく表現しています。日本社会では、見たり、聴いたり、読んだりしたことについて、印象や感想を求められることはあつても、そうしたことに対して自分なりの批評を求められることは滅多にありません。それは批評家の仕事であつて、一般人は、「よかった!」「素晴らしかった!」「感動した!」と感嘆詞を並べられれば

十分です。A、対象への印象批評ができれば十分で、それ以上の説明や根拠を求められることは稀なものです。日本の文化では多くを語らないことが美德とされてきました。B、個人の心の中にある感動を無理矢理に言語化させるなどという無粋なことはしてはならないことでした。

C、ヨーロッパ人、そしておそらくはアメリカ人に対して、この感覚は通用しません。ヨーロッパ人と映画などを観に行つて、うっかり「よかった。最高だ!」などと言葉を発すれば、三善晃氏の述べるように、たちまち「どこがよかったの?」どのようによかったと君は感じるの?」と畳みかけられることになるでしょう。D、あなたはこうした問いに答えることができるでしょうか。例えば英語では無理でも、少なくとも日本語ではいかがでしょうか。

実はこうした問いかけに答えられるかどうか、外国語でコミュニケーションできるかどうかの大切な鍵になります。こうした問いに答えるためには、対象を分析的に切り取る能力が必要になります。つまり、対象をぼんやり眺め、心で何となく感受するだけでなく、同時に頭も働かせて、なぜ自分がどのように感じるのだろうか、どの部分に対してそのように感じたのかと分析して、その理由を探し出す必要があるのです。

(三森ゆりか『外国語を身につけるための日本語レッスン』)

★追求…:通常は「追及」だが、原文に従つた。

問一 ——(1)「あなたは何をしましたか?」とありますが、この問答において、先生が期待したのは、日本人生徒がどのように答えることですか。本文の表現を用いて四十字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問二 ——(2)「私にはよく理解できない。」とありますが、もし日本人同士の会話であつたら、相手の答えが理解できない場合、聞き手はどうしますか。本文の表現を用いて四十五字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問三

——(3)「余計なことに気を回さず」とありますが、先の「余計なことに気を回」した日本人生徒はどういったことを考えたのでしょうか。ふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いつもと変わらない日曜日だったので、とりたてて言うことはしていません。

イ 外国人の先生に、日本人の食事や習慣を話しても理解できないだろうと考えた。

ウ 本当はずっとベッドで寝ていたのだが、正直に言うと馬鹿にされるだろうと考えた。

エ 先生の質問の意図がよくわからず、あいまいな返事をしてごまかそうと考えた。

問四

——(4)「一般的な日本人の言語環境」とありますが、その中において重要視されているのはどのようなことですか。本文中から十五字以内で抜き出さない。 (句読点があればそれも含み、必ず一マスを用いること)

——(5)「ヨーロッパ人、そしておそらくはアメリカ人に対して、この感覚は通用しません。」とありますが、では、ヨーロッパ人やアメリカ人とコミュニケーションするためには必要なのは、どのようなことですか。本文の表現を用いて四十五字以内で説明しなさい。 (句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問六

A D に入れるのにふさわしいものを次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア とりわけ イ ところが ウ ところで エ つまり

問七

——(ア) (オ) のカタカナを漢字に書き直しなさい。

問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 英会話の授業では、先生の質問にうまく答えられない生徒が多かったが、それは会話中に余計なことを考えて先生の質問を正確に聞き取っていなかったからである。外国語のコミュニケーションでは相手のことを分析的に聞き取ることが必要である。

イ 英会話のレッスンでは、日本人同士のような感覚で話すと、会話は滞ってしまう。日本人はゆつくりと話しがちだが、ヨーロッパ人は即答を求める。したがって、英会話では文は短くして、なるべく早く答えることを常に心がけなければならない。

ウ 欧米人は自分がどのような受け取り方をしたかを言語化するので、彼らとの会話においては、ただ感想を述べるだけではなく、その理由が追及されることになる。映画の話をして、どこが良かったか、どのように良かったかが説明できなければならぬ。

エ 英語の水準は高くても日本語的な発想をしながら会話をすると、英語でのコミュニケーションはうまくいかない。日本語的な「何もありませんでした」を多用すると、外国人は相手に対する興味をなくすから、そのような余計なことは省くべきである。

② 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「先生、私思うんですけど！」

そうして竹内さんは先生に向かつて、演説するみたいに言いはじめた。

「サンちゃんっていう名前も、吉川くんがつけたんです。(1) 足が三本しかないからサンちゃん。これは、差別の呼び方だと思います。名前を変えてあげるべきです！」

僕はそれを聞いて、ぼかんと口を開けてしまった。だって、どうしてサンちゃんじゃいけないのか、ぜんぜんわからなかったんだ。差別の名前？ なんて差別？

クラスのみんなも、すぐにそれぞれ自分の意見を喋りだして、教室の中はみんなの喋り声でうるさくなってしまった。それでも吉川くんは、黙ってうつつむいたまま。耳のわきに汗を浮かべて、お地藏さんみたいに固まっちゃった。

すると村下先生が、はいはい、みんな静かに！ と手を叩きだした。そうして吉川くんのほうを見て言いだしたんだ。

「どう？ 吉川くん、自分の意見言える？」

村下先生が訊くと、みんなはビタリとお喋りをやめて、吉川くんに注目した。

「吉川くん、どうしてまゆ毛書いたの？」

先生の言葉に、吉川くんはそれでもしばらく何か考え込んでいたけど、いよいよ覚悟を決めたようで、ゆっくりと顔をあげた。そして、消えてしまいうる小さな声で、ようやく言ったんだ。

「……かわいいと思つて」

すると竹内さんたちは、信じられん！ とか、非常識や！ とか言つて、やっぱり吉川くんを責めはじめた。あんなの、ぜんぜんかわいくないし！ いじめやで！ そうや！ 虐待や！ そして最後には、竹内さんが言い切ってしまった。

「こんな人がつけた名前は、やっぱり変えるべきです！ サンちゃんなんて、やっぱり差別の名前です！」

竹内さんに生まれた吉川くんは、しよげ返つたみたい(2)にまたうつつむいた。そんな吉川くんを見ていたら、なんだか僕のほう(2)がむずむずしてき

30

25

20

15

10

5

た。おしりのあたりがくすぐつたくて、勝手に体がゆれてしまった。

言いたいことがあるんなら、言っちゃえばいいじゃん。そんなよんちゃんの声が聞こえてきたのは、むずむずがお腹のへんにまできていた頃だった。気づくと頭の中に、よんちゃんがやって来てた。困った時は飛んでくるって、あの約束は本当だったみたい。

よんちゃんは僕に向かつてニツと笑うと、いきなり楽しそうに踊りだした。ええじゃないか、ええじゃないか、ヨイヨイヨイヨイ。なんのことかと僕が驚いていると、よんちゃんはやっぱり踊りながら歌い続けた。言っちゃえばええじゃないか、ヨイヨイヨイヨイ。それで僕は、よんちゃんの踊りに合わせて手をあげてしまった。

「あの！ 僕、サンちゃんのままでもいいと思います！」

いつもふざけてばかりで、発表なんてほとんどしない僕だから、みんな驚いた顔をして、いっせいに僕のほうを見た。こういうのって、なんだか居心地が悪い。でも、ここまで言っちゃたらもう後には引けない。よんちゃんも頭のなかで踊り続けてるし。ヨイヨイヨイヨイ。

「あ、僕……。サムって、名前やろ？」

それを略して、ミーナ……。うちの母親が、サムにしたらしいんやけど……」

すると向こうの女子たちが、すぐにくすくす笑いだした。笑い声にまじつて、ハンサムって、イケメンってことか？ とか、大島くん、別にイケメンじゃないよな？ とか、そんな声も聞こえてきた。だから僕は、そうだよ、と心の中でうなずいた。やっぱり、僕がサムって、おかしいよね。頭の中のよんちゃんも、踊りながらうなずいてる。おかしいよ、おかしいよ、ヨイヨイヨイヨイ。

「初めて会った人に自己紹介すると、だいたい笑われます。ヘンな名前だつて、言われちゃう。意味を言つても笑われます。だって僕、ハンサムになつたらんし」

保育園の頃の僕は、それがなんかイヤで、自分の名前を隠したりもした。でも、まだ会つたばかりだったよんちゃんが言つてくれたんだ。

「仕方ないよ。お前みたいな一重まぶたの薄顔ボーイにサムって名乗られてもさ、みんなそりや笑うって。むしろお前はそれを武器にしたほうがいい。笑わせたモン勝ちだ。満身創痍の一発ギャグだ。笑つてもらえたら、それはステキなことなんだって思えばいい。人を笑わせるって、結構むずかしいことなんだぜ？ つまり、人と会うなりそれができるお前は、最

60

55

50

45

40

35

強つてこと。サムは、最強の男なんだよ」

それから僕は、自分の名前をちゃんと言うようになった。笑った人とは、仲良くなれたりそうでもなかったり、まあ色々だったけど。でも笑われることは、別にそれほど悪いことでもないってわかった。

「みんなも、僕が自己紹介した時、おかしくて笑ったやろ？ でも僕は、けっこううれしかったんや。笑ってみんなが話しかけてくれて。サンちゃんも、同じやと思う。だって、サンちゃんは、サンちゃんて呼ばれたら、よろこんで走ってきてくれるもん。だからサンちゃんは、サンちゃんていいと思います。差別の名前とかじゃ、ないと思います」

それだけ言って僕は席についた。その時にはもう、よんちゃんはいなくなつた。僕の発表が終わつたから、帰っちゃつたんだらうか？ 踊るだけ踊つていなくなるなんて、すごくよんちゃんらしいけど、でももう少しゆっくりしていけばいいのに。

僕の発表のあと、村下先生はしばらくだまって考えこんでいた。そうして窓の外のサンちゃんのほうに向き直つてから、ひと息ついて言いだした。

「名前を変えるって、むずかしいことなんや。人間やつたら、裁判所に رفتたり、色々せにゃならんしな。けどサンちゃんは犬やし、裁判所に連れてくわけにもいかん。そやで、どうやろ？ みんなでサンちゃんて呼んでみて、サンちゃんがよろこんでくれたら、サンちゃんのままでいいことにせん？」

もちろん僕は、まっさきに手をあげた。

「賛成！ 僕、それすごい賛成です！」

だけどクラスみんなは、どうしよう？ って感じの顔で、まわりの様子うかがつてた。それで僕は、ちよつとひるんでしまった。賛成するのは、もしかしたら僕だけになつちゃうかも知れない。でも、一番後ろの席にいた紺野くんが、僕と同じように手をあげてくれたことで、教室の空気はいっぺんに変わつちやつた。

「俺も賛成」

紺野くんはクラスの中で一番目立つ人だ。そんな紺野くんが賛成をしてくれたおかげで、他のみんなの気持ちもいっぺんに決まつてしまつたみたい。男子たちのほとんどが、次々賛成！ と手をあげていって、女子も半分くらいは手をあげてくれた。

それで僕は、教室の窓からサンちゃんの名前を呼んでみた。いっせー

95

90

85

80

75

70

65

の、で声を合わせてだ。サンチャー！⁽⁵⁾ そうしてサンちゃんの名前は、サンちゃんのままでもいいことになった。

吉川くんは、もうまゆ毛を書いたりしないと約束して、竹内さんたちに頭をさげた。竹内さんたちは不機嫌^{ふきげん}そうに、だけど吉川くんを許してあげていた。うちらだつて、サンちゃんのこと大事に思つとるんやで。そうや、吉川くんだけのサンちゃんじゃないんやし。もうやらんといてよ。たぶん、サンちゃんのおんぶんふられたしつぽを見たら、許してあげるしかなかったんだと思う。

放課後、帰ろうとする僕に吉川くんが声をかけてきた。

「大島くん。さっきは、ありがとう」

だけど僕は、ちよつとてれくさくなつてしまつて、へらへらと笑つちやつた。別に、そんなの、ええつて。すると吉川くんは、何か言いたそうに、口をばくばくと動かしはじめた。いつもあんまり喋らないから、時々喋ろうとするとうまくいかないのかも知れない。そう思つて僕は、吉川くんが声を出せるのをじつと待つた。

「あの、な。サンちゃんの、名前な」

ちよつとふるえるような声で、吉川くんが喋りだす。

「うん？」

僕は、じつと吉川くんの口の動きを見守る。

「あれ、うちの兄ちゃんと、一緒に考えたんや」

「うん」

「三本、⁽⁶⁾足でも……」

「うん？」

「三本足でも、お前はちゃんと走れる。だからサンちゃん」

「ああ……」

「だから、ありがとう。大島くん」

そうして校庭を歩いてた僕らのもとに、サンちゃんが駆け寄つてきた。もちろんしつぽはふりふりで、まずは吉川くんに飛びついたかと思うと、べろべろ顔をなめはじめた。

⁽⁷⁾ 吉川くんはめずらしく声をあげて笑いながら、くすぐつてーつて、サンちゃん！ なんて言つて、サンちゃんの首のあたりをめいっばいまで回した。サンちゃんはそのことがうれしいみたいで、これでもかかってほどしつ

130

125

120

115

110

105

100

ぼをふって、やっぱり吉川くんの顔をまたなめた。まゆ毛が書かれている
せいか、サンちゃんはなんだかいつもより笑っているみたいに見えた。

(大沼純子『僕らのパレード』)

問一

——(1)「足が三本しかないからサンちゃん。」とありますが、「サン
ちゃん」という名前にこめられた本当の意味は、それとは違っています。
す。名前の意味を本文の表現を用いて二十字以内で説明しなさい。
(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問二

——(2)「むずむずしてきた。」とありますが、これは「僕」のどのよう
な気持ちを表していますか。二十五字以内で説明しなさい。(句読点
も含み、必ず一マスを用いること)

問三

——(3)「あの、僕……。サムって、名前やろ？」とありますが、「サン
ちゃん」をめぐる議論のなかで、「僕」が自分の名前について話したの
は、どのようなことを伝えたかからですか。「サンちゃん」に関連
させながら、本文の表現を用いて五十字以内で説明しなさい。(句読
点も含み、必ず一マスを用いること)

問四

(4) に入る四字のことばを本文から抜き出しなさい。

問五

——(5)「そうしてサンちゃんの名前は、サンちゃんのままでもいいこと
になった。」とありますが、それは「サンちゃん」が子どもたちに名前
を呼ばれた後、どのような行動をしたからだと考えられますか。本文
の表現を用いて十五字以内で具体的に説明しなさい。(句読点も含み、
必ず一マスを用いること)

問六

——(6)「足」とありますが、「足」を使った次の一〜五の慣用句の意味
を後の「意味」ア〜オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- 一 足がつく 二 足が出る 三 足を洗う
四 足を運ぶ 五 足を引っ張る

「意味」

ア よくない仕事や、悪いおこないをきっぱりやめる。

イ 物事の進行のじまをする。

ウ 何か手がかりとなって、犯人がわかる。

エ お金がかかって、かんじょうが足りなくなる。

オ わざわざ出かけていく。

問七

——(7)「吉川くんはめずらしく声をあげて笑い」とありますが、それ
はなぜですか。本文全体をふまえて五十字以内で説明しなさい。(句
読点も含み、必ず一マスを用いること)

問八

本文の内容に合うものを次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えな
さい。

ア クラスで吉川くんが「サンちゃん」にまゆ毛を書いたことと「サ
ンちゃん」と名づけたことで竹内さんたちに非難されたとき、

「僕」と紺野くんは吉川くんを弁護する発言をした。その後、村下
先生の提案とその結果によって「サンちゃん」の名前はそのまま
でよいことになった。

イ クラスで吉川くんが「サンちゃん」にまゆ毛を書いたことと「サ
ンちゃん」と名づけたことで竹内さんたちに非難されたとき、村

下先生にさりげなく発言をうながされた「僕」は吉川くんを弁護
する発言をした。その後、村下先生の提案とその結果によって
「サンちゃん」の名前はそのままよいことになった。

ウ クラスで吉川くんが「サンちゃん」にまゆ毛を書いたことと「サ
ンちゃん」と名づけたことで竹内さんたちに非難されたとき、

「僕」は自分の名前に関わる思いを例に出して吉川くんを弁護する
発言をした。その後、村下先生の提案とその結果によって「サン
ちゃん」の名前はそのままよいことになった。

エ クラスで吉川くんが「サンちゃん」にまゆ毛を書いたことと「サ
ンちゃん」と名づけたことで竹内さんたちに非難されたとき、

「僕」はよんちゃんの助言によって吉川くんを弁護する発言をした。
その後、村下先生の提案とその結果によってまゆ毛も「サンチャ
ン」の名前もそのままよいことになった。

